

# 涼しげに 夏の日

8

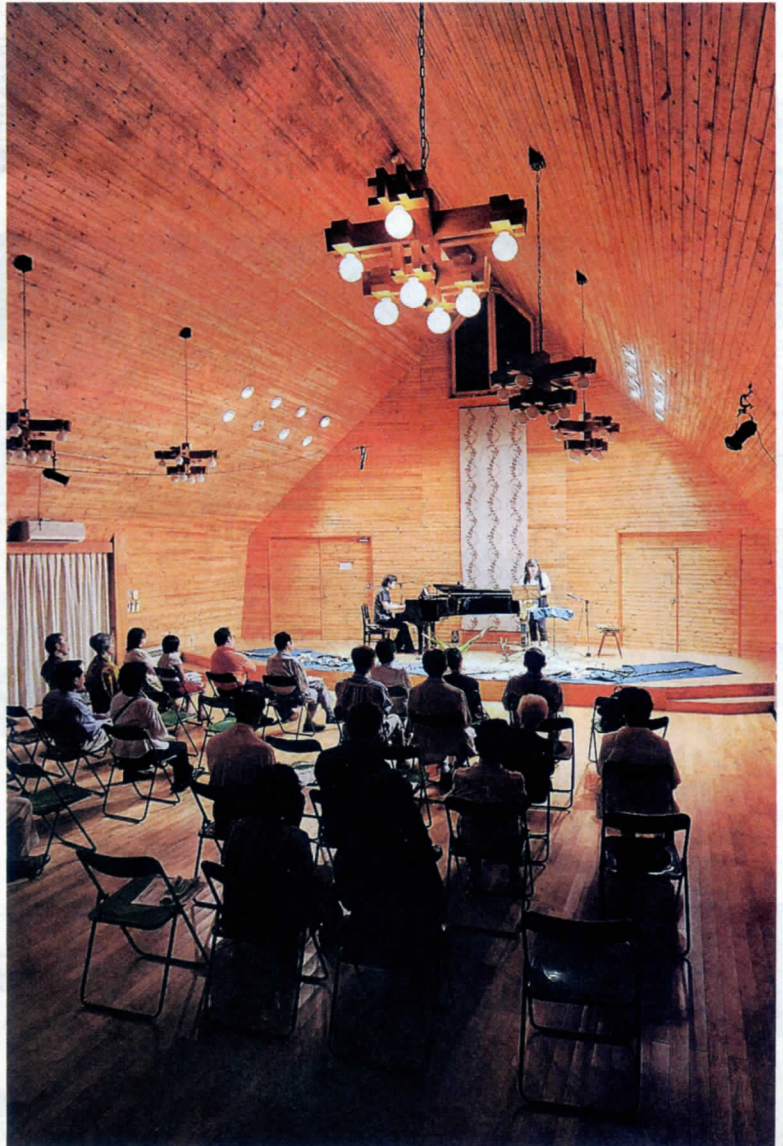
バイオリンやピアノの弦の上を、演奏家たちの弓が軽快に踊る。管楽器や弦楽器が奏でる古典派やバロック音楽の調べに、愛好家ら約60人がじっくりと聞き入った。

茅野市豊平の市尖石縄文考古館に近い別荘地。「ハーモニーの家 渡辺暁雄メモリアルホール」で1日、首都圏や地元のプロ、アマチュアの演奏家ら35人が出演した演奏会「サマー・コミングル@蓼科」が開かれた。木立に囲まれ、正面から見ると三角形の屋根が映える建物は、多様な演奏家たちによる発表の場として親しまれている。

独学で覚えたりリコーダーを披露したのは茅野市玉川の会社員武藤哲也さん(49)。2年前に演奏会を訪れ、出演者同士の結び付きの強さを

## 茅野の渡辺暁雄メモリアルホール

# 演奏者たち心通わす場



サクソホンとピアノの澄んだ音色が響くホール。連日のようにさまざまな演奏会が開かれている=7日

感じて「仲間に入れたら」と思ったという。演奏の後、「とても居心地が良かった」と充実した表情を浮かべた。

ホールでは毎年夏、さまざまな演奏会が開かれる。父親が岡谷市出身の世界的指揮者、渡辺暁雄さん(1919~90年)らが1978(昭和53)年につくったグループ「ハーモニーの家」が「高原芸術祭」と題して開催。「コミングル」もプログラムの一つだ。24回目の今年はほかにピアノやジャズ、歌などのステージが9月初旬まで続く。

80人ほどが入れるホールは82年、

コンサート拠点にと会員たちが資金を出し合って完成させた。北欧のアカマツやスギをふんだんに使い、室内は木のぬくもりを感じさせ、音響効果も考慮。隣には宿泊施設もあり、出演者は寝食を共にして親交を深める。

標高約1100㍍。建物の周囲はシラカバなどの木陰が涼しげ。友人らの演奏を聴きに来た都内の音大生、丸谷緑さん(21)は「いい所。ホールは音が響き、内装もおしゃれですね」と笑顔を見せた。

「コミングル」は地元との交流も目的の一つで、今回は諏訪交響楽団

の団員ら諏訪地方の5人が出演した。近くに別荘を持ち、この演奏会に中心にかかわる相愛大音楽学部教授の安井敏雄さん(67)＝神奈川県鎌倉市＝は「演奏者同士が心を通わせる場として、さらに仲間の輪が広がれば」と話している。

(おわり)

「高原芸術祭」は9月4日まで。11日以降も10プログラムを予定。入場料は3千円～1500円。問い合わせはハーモニーの家(会東京事務所) ☎042・384・7081へ。